

## 持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム第1回会合 岸田外務大臣ステートメント

議長、  
御列席の皆様、

本日、持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム第1回会合が開催されることを、心から歓迎します。

国際社会は、昨年のリオ＋20において、持続可能な開発を後押しする意思を確認しました。その意思が国際社会の具体的な行動で示されるよう、我が国は、三つの観点から積極的に取り組んでまいります。

その第一は、国際的な取り組みへの積極的な参画です。

SDGsオープン・ワーキング・グループは、2015年以降の開発のあり方について議論する、唯一の政府間交渉の場です。我が国は、「人間の安全保障」の理念の下、この議論に積極的に貢献します。

また、持続可能な開発ファイナンス戦略に関する政府間委員会では、国内資金や民間資金等、「多様な資金源」の活用を訴えてまいります。

第二に、我が国自身の経験に基づく途上国支援を着実に推進します。

我が国は、資源生産性や循環利用率を過去10年で約50%上昇させる等、技術に裏打ちされた形での「持続可能な社会づくり」を進めてきました。

これまで、高効率の配電網等の「省エネ支援」、地熱発電や風力発電の普及といった「再生可能エネルギー支援」、さらには、河川改修等の「防災支援」を進めてきました。我が国は、このような途上国に対する貢献を引き続き行ってまいります。

第三に、国際的なネットワークづくりを主導してまいります。

「think globally act locally」と言いますが、持続可能な開発には、地方や市民、企業など様々なステークホルダーの努力に加え、相互のパートナーシップが重要です。

こうした観点から、「持続可能な都市づくり」のネットワークを構築するため、我が国は、来月、エネルギーや交通といった「都市の多面性」に焦点を当てた国際会議を、環境先進都市・北九州市で開催します。

また、持続可能な開発の担い手を育成する教育のためのパートナーシップ推進のため、我が国は、来年11月、「持続可能な開発のための教育」に関するユネスコ世界会議を、岡山市及び名古屋市で開催します。

そして東日本大震災の被災地となった仙台市において、2015年3月、第3回国連防災世界会議を開催し、我が国の経験、教訓、技術を世界と共有したいと思います。

議長、

2015年、MDGsは期限を迎えます。本フォーラムは、2015年に向けた羅針盤となり、それ以降の持続可能な開発のエンジンとなります。我が国としても、本フォーラムが、適切な方向性を打ち出し、強力な出力を発揮できるよう、積極的に貢献していく所存です。

ご清聴ありがとうございました。